

秦野市の水田で発見されたタウナギ

伊藤恵美・永田幸志・小田慶磨

Megumi Ito, Koji Nagata and Yoshima Oda:
A swamp-eel found in Hadano City

はじめに

タウナギ *Monopterus albus* は、タウナギ目タウナギ科タウナギ属に分類される、ウナギ型の細長い魚類である。移入種とされており(中坊, 2000)、関東以南の本州と沖縄が分布の範囲とされるが、生息の確認は少ない(川那部・水野編, 1989)。環境省レッドデータリストでは、絶滅のおそれのある地域個体群のカテゴリーに、また沖縄県版レッドデータブックにおいては危急種のカテゴリーに分類されており、沖縄島での最近の調査でも、まれに発見される程度といわれている(沖縄県文化環境部自然保護課, 2000)。

発見の経緯

2001年7月22日、採取者が秦野市鶴巻石原田にある本人所有の水田の見回りに行ったところ、水田の側溝で発見した。

2001年9月15日、本個体のいた水田の稲刈りを行った際、土の中から20 cmほど頭を出し、土の中に潜っている状態でふたたび発見するに至った。捕獲してみたがすでに死んでいたため、クーラーボックスにいれて保存し、2001年9月17日に秦野市役所環境保全課を通してセンターに連絡をいただいた。

形態と同定

種を同定するにあたっては、中坊(2000)にしたがった。すなわち、体表面には鱗がなく、粘液に被われること、胸鰭と腹鰭はないこと、背鰭と臀鰭に鰭条はなく、鰭褶となっていること(図1)、そして、左右の

鰓孔は合してひとつになり、腹面に開孔する(図2)ということから、本種をタウナギと同定した。個体の全長は90 cmであった。

なお、本個体の標本は神奈川県立生命の星・地球博物館に寄贈した(標本番号: KPM-NI 8716)。

おわりに

本県における分布を調べてみたところ、神奈川県レッドデータ生物調査団(1995)、神奈川県水産総合研究所内水面試験場(1998)、また勝呂ほか(1998)、勝呂・安藤(2000)の文献からもタウナギの報告は確認されなかった。したがって、本稿が神奈川県では初めての正式な記録となると思われるが、秦野市に昔より在住している農家の人から話を伺うと、40年ほど前には水田に多くのタウナギが見られたとのことであった。

近県においては、静岡県で1981年に浜名湖西岸の笹子川脇の水田の小溝中より見つかった記録が報告されている(坂井, 1982)。

謝 辞

本稿をすすめるにあたって、神奈川県水産総合研究所内水面試験場の勝呂尚之主任研究員には、種の同定についてご教示いただき、大変お世話になりました。ここに謹んで深謝いたします。

また、情報および個体を提供してくださった、採取者である成幸工業の沼田常吉氏、現地までご同行くださった秦野市役所大津操氏にも感謝の意を表します。

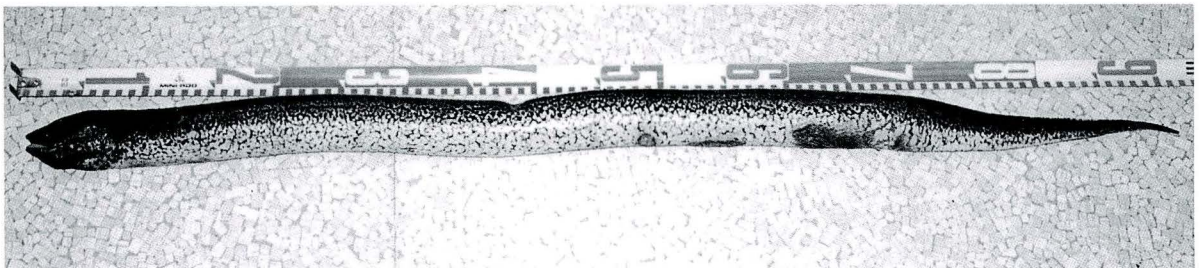


図1. 全身図.



図2. 腹面に開孔する鰓孔の様子.

文 献

沖縄県文化環境部自然保護課, 2000. レッドデータブック種タウナギ (危急種) [online] . [引用:2002-1-10]. Available for

Internet:<http://www.pref.okinawa.jp/okinawa_kankyo/rdb/sp_data/j-01032.html> .

神奈川県水産総合研究所内水面試験場, 1998. 平成9年度相模川水系魚類生息状況調査報告書.

神奈川レッドデータ生物調査団, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, 神奈川県立博物館調査研究報告自然科学7.

川那部浩哉・水野信彦編, 1989. 日本の淡水魚, p. 676. 山と溪谷社, 東京.

坂井隆彦, 1982. 静岡県の淡水魚類-静岡県の自然環境シリーズ, p.83. 第一法規出版株式会社, 東京.

勝呂尚之・安藤隆, 2000. 神奈川県 of 稀少淡水魚生息状況-II (平成9~10年度), 神奈川県水産総合研究所研究報告, 5.

勝呂尚之・安藤隆・戸田久仁夫, 1998. 神奈川県 of 稀少淡水魚生息状況-I (平成6~8年度), 神奈川県水産総合研究所研究報告, 3.

中坊徹次, 2000. タウナギ科. 中坊徹次編. 日本産魚類検索, 第二版, I. p. 511. 東海大学出版会, 東京.

(神奈川県自然環境保全センター)